

第2節 本計画で想定する災害

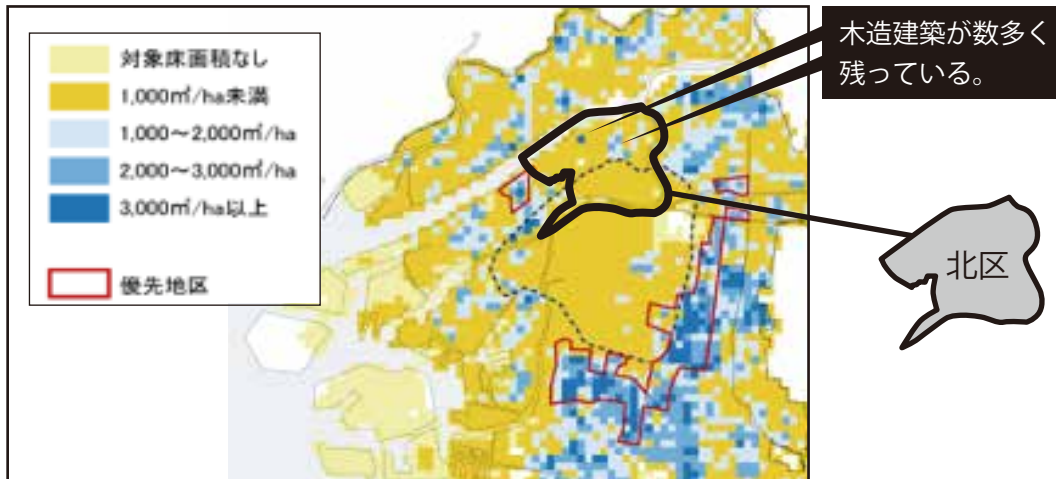
1. 火災 - もっとも身近な災害です！

近年、建築物の不燃化や消防体制の充実などが進み、延焼に至らず消火されていますが、北区では多くの木造密集市街地があり、季節や風速などによっては大規模火災が発生する危険性を含んでいます。

特に、大災害時には消火活動が行き届かないため大規模火災の危険性が高まります。

また、狭隘道路（幅4m未満）が多く残る地域は、災害時の避難経路を日ごろから確認しておく必要があります。

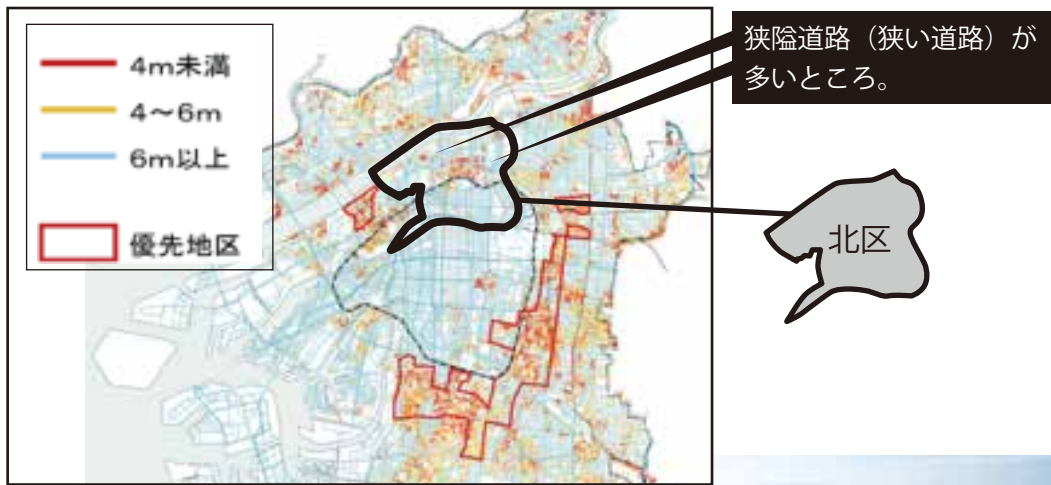
大阪市では、大規模な火災時など大人数の緊急避難に対応するため、緊急避難路や広域避難場所を指定しています。



耐震性の劣る木造住宅の床面積の分布 出典：大阪市建物床面積調査（平成18年）



防災対策が求められる
レトロな木造建築（北区内）
提供：市民



狭隘道路分布図
出典：平成12年道路幅員現況調査



広域避難場所 中之島一帯（施設内を除く）
(c) 大阪観光局 ((公財)大阪観光コンベンション協会)

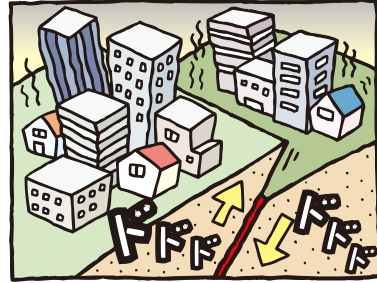
2. 地震・津波 -北区でも最大震度の揺れ！津波襲来のおそれが！

(1) 活断層型地震

大阪にはいくつもの活断層が存在し、特に上町断層においては北区内で震度7クラスの地震を引き起こし、多くの家屋倒壊、火災、交通網・通信網の寸断などが想定されます。

大阪市では、震災などによる家屋の全半壊などで生活継続が困難となった被災者を一時的に受け入れる災害時避難所を指定しています。

平成7年（1995年）1月17日に発生した、阪神・淡路大震災は活断層型地震であり、家屋や公共施設の倒壊などで甚大な被害が発生しました。



活断層の位置

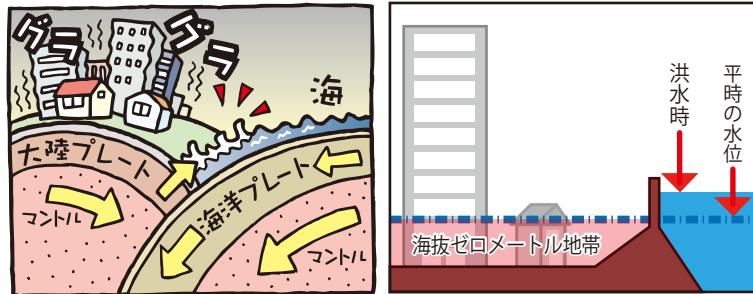
震 度	状 況
震度4	<ul style="list-style-type: none"> ●ほとんどの人が驚く ●電灯などのつり下げ物は大きく揺れる
震度5弱	<ul style="list-style-type: none"> ●大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる ●棚にある食器類や本が落ちることがある
震度5強	<ul style="list-style-type: none"> ●物につかまらなさと歩くことが難しい ●固定していない家具が倒れることがある
震度6弱	<ul style="list-style-type: none"> ●立っていることが困難になる ●壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある
震度6強	<ul style="list-style-type: none"> ●はわないと動くことができない。飛ばされることもある ●耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが増える
震度7	<ul style="list-style-type: none"> ●耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある ●耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では 倒れるものが増える

地震による揺れと被害

<巻末資料>
 →液状化予測図
 →震度分布図

(2) 海溝型地震

海洋プレートが大陸に沈み込むことで発生する地震で、南海トラフ巨大地震が発生すると北区内で震度6弱の地震や2mの津波の影響による



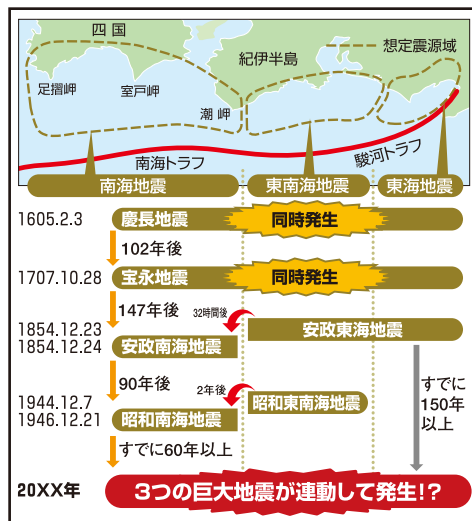
浸水被害が発生し、多くの家屋倒壊、火災、交通網・通信網の寸断、地下街や低層階の浸水・水没などが想定されます。

大阪市に津波が到達するまでには110分あると想定されています。

北区の概ね西側半分は海抜ゼロメートル地帯ですので、ひとたび浸水すると長期にわたり、水が引かない状況が懸念されます。

北区役所では、ビル所有者などに協力を求め、津波避難施設（津波避難ビル・水害時避難ビル）を指定しています。

平成23年（2011年）3月11日に発生した東日本大震災は、海溝型地震であり、津波の恐ろしさについて世界中に衝撃を与えました。



東南海・南海地震は、100年から150年の周期でマグニチュード8クラスの巨大地震が発生しており、今世紀の前半にも発生するといわれています。



津波避難ビル施設に貼られるステッカー

津波避難ビルに登録されたブリーゼタワー

- <巻末資料>
- 液状化予測図
 - 震度分布図
 - 水害ハザードマップ

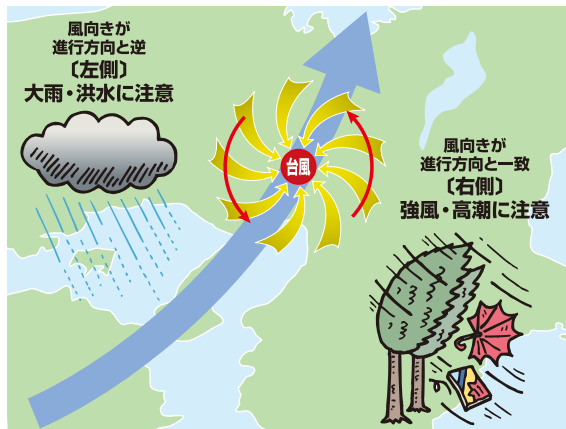
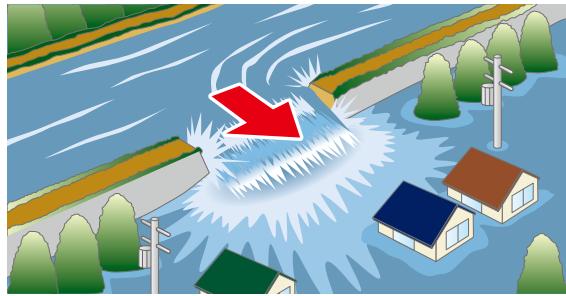
3. 河川氾濫（台風等の豪雨災害） - 河川氾濫により、最大 5.5m の浸水被害が！

台風、集中豪雨、津波の河川遡上などが原因の河川氾濫により地下街や低層階の浸水・水没などが想定されます。

台風は主に夏から秋にかけて日本列島に接近、あるいは上陸して、強い雨や強風、高潮を伴います。

特に淀川流域に総雨量 500mm の雨が短時間に降り、仮に堤防が決壊した場合、北区では 5.5m の浸水被害が想定されます。

大阪市では、水害により自宅などでの滞在に危険が予測される住民を一時的に受け入れる津波避難施設（津波避難ビル・水害時避難ビル）を指定しています。



風と雨の強さ

■風の強さと想定される被害

平均風速 (m/秒) 予報用語	想定される被害
10以上～15未満 やや強い風	傘がさせない
15以上～20未満 強い風	風に向かって歩くことができない
20以上～25未満 非常に強い風	車の運転を続けるのは危険な状態となる
25以上～30未満 非常に強い風	樹木が倒れ始める 瓦が飛び始める
30以上～ 猛烈な風	屋根が飛ばされるなど、木造住宅が壊れ始める

■雨の強さと想定される被害

1時間雨量 (mm) 予報用語	想定される被害
10以上～20未満 やや強い雨	長く続くときは注意が必要
20以上～30未満 強い雨	側溝などから水があふれることがある
30以上～50未満 激しい雨	マンホールから水があふれることがある
50以上～80未満 非常に激しい雨	地下街に雨水が流れ込むことがある
80以上～ 猛烈な雨	大規模な災害が発生するおそれが高い

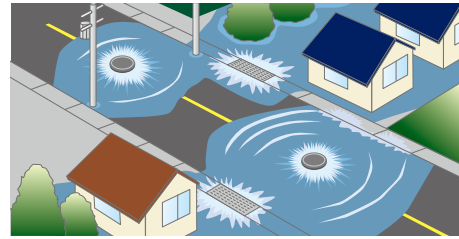


平成 25 年台風 18 号により淀川の河川公園などが水没しました。(H25.9.16)

<巻末資料>
→水害ハザードマップ

4. 内水氾濫 - 進む市街化は都市型災害を引き起こす！

都市部の地表はアスファルトやコンクリートで覆われているため、雨水は地下に浸透しません。そのため、局地的大雨により下水道処理が追いつかなければ、内水氾濫を引き起こします。



内水氾濫が起これるとマンホールから水が溢れ出てきたり、道路が冠水したり、地下街や低層階の浸水・水没などが生じます。



内水氾濫：茶屋町の浸水被害情報
(平成 25 年 8 月)
提供：市民



地下街浸水：福岡市営地下鉄博多駅への浸水被害状況
(平成 15 年 8 月)
提供：国土交通省九州地方整備局

<巻末資料>
→水害ハザードマップ

5. その他の不測の事態 - 異常気象など何が起るかわからない！日ごろから備えを！

(1) 大規模な積雪

近年では、太平洋側においても積雪が観測され、道路交通などに大きな影響を及ぼしています。

北区は主要な道路が集まっており都市施設が集積しているため、積雪による影響を顕著に受けます。突発的な降雪は交通機能のマヒにつながり帰宅困難者の発生をまねく可能性があります。

降雪・積雪時は不要不急の外出を避けて、車の利用を控えなければなりません。

(2) 大規模な停電

災害が発生すると、大規模な停電が発生する可能性があります。

また、夏の電力需給ひっ迫により、電力会社において計画的な停電が行われる可能性があります。

本市では、万が一、計画停電の実施又は大規模停電が発生した場合に、区役所及び本市各部局や関係機関と、被害などの情報の把握や対応を的確に行い、迅速な情報提供を行うため、「大阪市計画停電等対応マニュアル」を策定しています。

不測の事態に備えて、節電の取組み、電力が供給されない場合を想定した事前の備えが重要です。